

クトゥルフ神話 TRPG
オリジナルシナリオ

「穴あき空の旅」

●セッション概要（GM 用）

探索者たちはそれぞれの目的を持って旅客機に乗っていた。旅客機は無事飛び立つが、いつの間にか探索者たちは眠ってしまう。目を覚ますと、探索者以外の乗客が全員死んでいた。

所要時間：2～4 時間程度

難易度：初心者・中級者向け

こんな方向け：

神話生物と仲良くなりたい。

謎解きをしたい。

一本道でないシナリオを遊びたい。

PvP 要素にも耐えられる友情がある。

シナリオ全体の真相

ミ=ゴは、フランスにある自分たちのコロニーにニャルラトテップの化身「膨らんだ女」を招いていた。彼女は新鮮な人間の脳みそを好物としており、ミ=ゴはそれを献上しようと考えている。

ミ=ゴたちはフランスにくる飛行機の情報がある男から買い、男には、ミ=ゴたちが安全に飛行機内で作業できるように手はずを整えてもらった。しかし、ミ=ゴから支払われた報酬である札束の通し番号が全て同じであり、男は文句を言ったため、それで揉めて殺されてしまう。

そこで、探索者達は目を覚ます。すでに人間の脳の回収は終わっているが、探索者たちは偶然にも無傷のまま助かっていたのだ。

殆どのミ=ゴは飛行機の下に張り付いていた自分たちの乗り物に帰り、出発の準備をしていたのだが、目を覚ました探索者達が近づいていることに気づいて慌てて出発した。そして、飛行機の中には探索者たちと乗り遅れた1体のミ=ゴが残されることになった。

脱出方法

1. 機長は、懐の交通安全のお守りの中に、妻からもらった手紙を持っている。その手紙には空中浮遊の呪文が記されているので、飛行機から飛び降りてそれを唱えることで助かることができる。
2. 機内の人間をミ=ゴに売った男は、自分の脱出方法として、怪鳥(ビヤーキー)を呼び出すホイッスルを持っている。それをつかってビヤーキーに乗って脱出する。
3. ミ=ゴの協力を得て、ミ=ゴが持っている機長の脳みそを探索者に移植し、機長に飛行機を着陸させてもらう。しかし、この場合、機長は探索者の肉体を貰い受け、そのまま生きてるので、機長に肉体を渡した探索者は元に戻れない。この場合の解決法は以下に記す。

3-A. 機長が帰りたい理由は妻が家で待っているから。しかしそれは勘違いで、妻は誕生日のサプライズとしてこの飛行機に乗っている。つまり、死んでいる。そのことを機長に伝えれば、機長は飛行機を着陸させたうえで、おとなしく身体を返してくれる。

3-B. 機長を説得できず、機長が探索者の身体を乗っ取った場合でも、脳みそだけになった探索者に助かる方法はある。その探索者は、ミ=ゴにコロニーへと連れて帰られることになる。しかし、その探索者は飛行機の中で、ニャルラトテップの化身(傀儡人形)と知り合っていた。そのことを証明できれば、ミ=ゴは非礼を詫び、ニャルラトテップと会わせてくれる。ニャルラトテップはその探索者に新しい肉体を与えてくれる。

※探索者作成の注意

- ・探索者達はパリ(シャルルドゴール空港)へ向かう飛行機に搭乗する
- ・エコノミークラスで固定
- ・キャラロスト時には、他の乗客から補充できるので、予備キャラを用意することもできる
- ・シナリオ崩壊するので、操縦(航空機)は禁止
- ・それぞれの探索者は、生きて地上に帰りたいと強く願っているということにするとなお良い
- ・探索者の中に一人だけ、特別な状況下に置かれる者が居り、それが一応の主人公となる。

◆導入

午後6時、羽田空港から、パリ(シャルルドゴール空港)へ向かうJL045便に乗った探索者達。

探索者 A はエコノミークラスの席に搭乗することになっていた。早めに席に着いていると廊下側から化粧の濃い太った女性に声をかけられる。

「すみません、奥の席に座りたいのですが、手荷物が大きくて入れないんです。一度廊下側に出てもらえますか？」

女性は、確かに少し大きめのキャリーバックを持っていた。それ以前に、女性の身体が太っているせいで、探索者 A が座っている状態では奥に入れられそうになかった。

「ありがとうございます。」

そう言って、その女性は奥の席に座った。

「あら…あなた、なんだか…」

その女性は探索者 A の顔を見て怪訝な表情をする。

「ごめんなさい、私、占い師をやっているの。なんだか、あなたから不吉な予感を感じ取ってしまって…。旅行先ではくれぐれも気をつけてね。」

「もし、なにか困ったことがあったら私の事思い出してちょうだい。きっと役に立つから。これ私の名刺ね。」

そういつて、彼女は名刺を渡してくれた。

名刺には、「占い師・内藤徹子」と書かれている。

「私、これでもその界限では有名人だから。フランスで怪しい奴に騙されそうになったら、『ウィシュニーアラソテ』というといいわ。向こうの言葉で『内藤徹子の知り合いです』という意味よ。でもあまり他の人に聞かれるようなところで言っちゃダメよ。」

「あんまり言われたら私の評判に響くもの。言っているのは本当に困ったときだけよ。」

★手荷物にはダイアル式の鍵がかかっている(鍵開けで開けることができる。)。手荷物の中身は譜面フランス語で「ミサ・ジ・レクイエム・ペルシュジャイ」と読める。オペラの譜面のようなとわかる。

★オカルトでこの譜面が演奏したもの・聞いたものに不幸をもたらす危険な譜面として処分された歴史があると知っている。これを持っているということは、只者ではないと気づく。
(本シナリオの解決に直接関係はない。)

飛行機は無事飛び立つが、夜ということもあってか、探索者たちは強烈な眠気に襲われる。

★探索者のうちもっとも CON の高い者が、CON*2 に成功した場合、以下の文言が聞ける。

「本日搭乗されている皆さんに、機長の橘がご挨拶申し上げます。本日は航路の気圧も安定しており、快適な空の旅となると予想されます。御用がある場合には、お手元の添乗員呼び出しボタンをお押しいただくか、お近くを通りかかった添乗員にお申し付けください。それではどうぞごゆっくり、おくつろぎください。」

◆探索開始

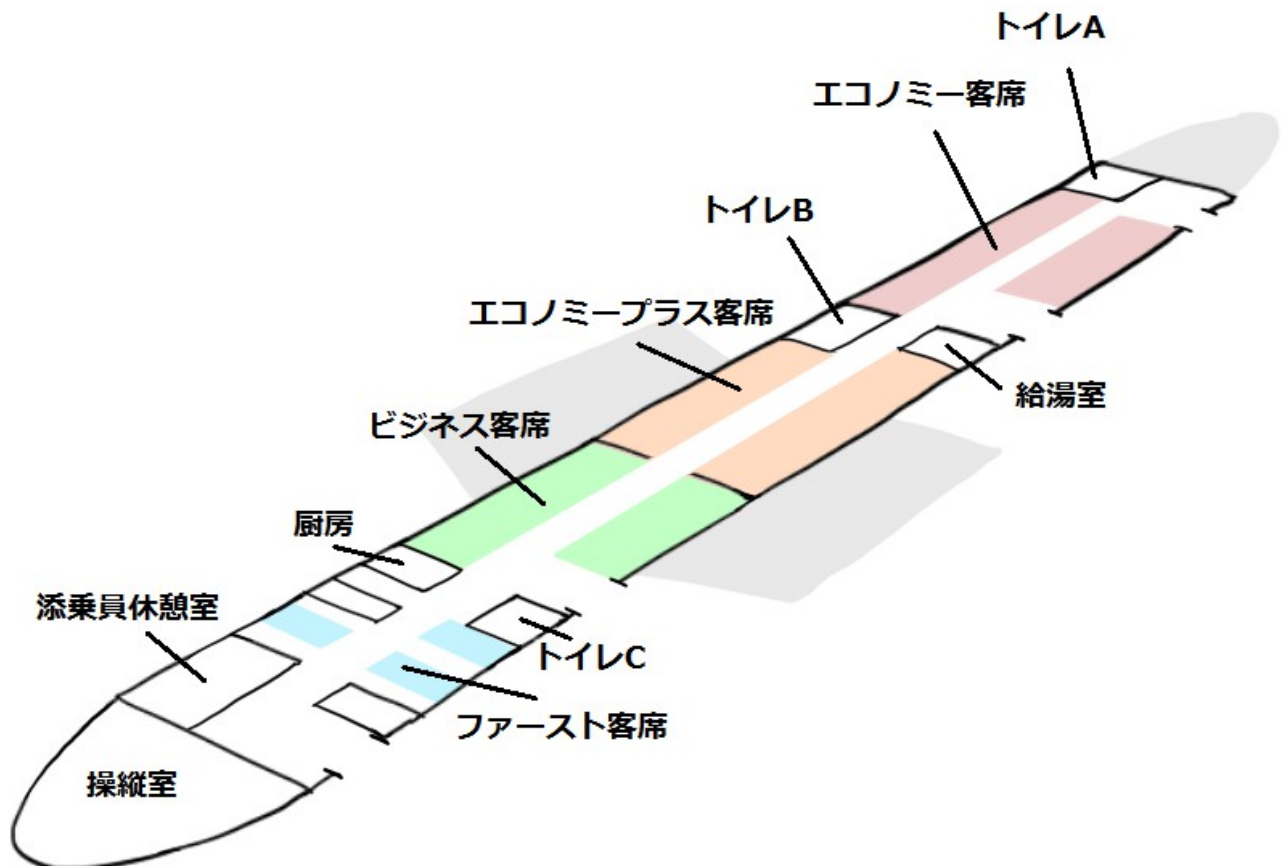
探索者たちは突然、急激な揺れ、そしてブザーで目を覚ます。廊下は非常用の赤いライトが点灯している。しかし、周りの乗客は異常なほどに静かだということに気がつく。このような状況だといふのに、周りの乗客は全員眠っているようだ。

探索者同士は、目を覚ましてキョロキョロしているお互いに気づく。

ボタンを押しても声を出してもCAは来ない。

周りの眠っている人間は動かすと、力なく倒れる。目星で、その後頭部に違和感を覚える。

よく見ると、その後頭部には穴が空いており、中が空になっていることに気づく。1/1d3+1



●トイレ A

特に何も無い。

●エコノミー客室

乗客は皆眠っているように見えるが、異常なほどに静かだ。

・緊急脱出用出口がある

●トイレ B

・トイレの扉には、焦げ目のついた直径3センチほどの貫通した穴が空いている。

・中では、ガスマスクをつけた男が仰向けに倒れて居るのが見える。胸にはスーツケースを抱えている。床には血が流れており、おそらく死んでいるだろうと分かる。スーツケースには穴が空いており、札がばらばらと床に広がっている。

★札束は日本円だが、札束の通し番号が全て同じになっている。

- ・男は日本人ではないらしく、身なりの良いスーツを着ている。
- ・片手にスマートフォンを持っており、ロックが解除された状態になっている。
(一度目を離してからまた見る時、ロックが解除された状態であるかどうかは幸運で決まる。)
- ・もう片方の手にも何かを握りしめている。

★メールの画面が開かれている

「契約に 従って ヒト 230 の 脳を 買い取りに 伺います
一人あたり ￥1000000 合計 ￥230000000 お持ちします」

★スマートフォンのメモ(ロックの解除は電子工学で)

「アルデバランの小笛の使い方

- 念じながら笛を吹くことで、アルデバランから鳥の使者を呼び出すことができる。
- さらに、命令を心に思い浮かべながら、優しく吹くと、鳥の使者はいうことを聞く。
- 1時間位は言うことを聞くが、その後は元の星に帰ってしまう。
- もし襲いかかってきたら、笛を吸うと、怪物をおとなしくさせる特殊な波長を奏でる。」

もう片方の手からは意匠の施された小笛が見つかる。

～怪鳥を呼んで逃げる場合の処理～

吹くと、床の穴から、2メートル以上ある、鳥のような怪獣が入ってくる。
鋭利なくちばしと鉤爪、そしてウロコに覆われた皮膚が特徴的で、グルルルと獰猛な獣のような唸り声を上げている。1/1d6

※笛を吸わないでいると襲い掛かってくる。

ビヤークー

STR21 CON14 SIZ24 INT11 POW9 DEX16

HP19

装甲 2

鉤爪 55%1d6+2d6

まだミ=ゴと出会っていなかった場合

★鳥の怪物に乗って逃げようとする、鳥の背後から、真っ赤な光線が走り、怪物の胸に巨大な穴が開く。鳥の怪物は血を吐きながらのたうちまわり、やがて動かなくなる。

その向こうには、その光線を発したであろう機械を構えた、1メートルほどもある巨大な昆虫の怪物が居た。0/d6

その昆虫怪物が羽を震わせると、脳の中に直接声が聞こえてくる。

「大変なことをしてくれましたね。おかげで、私の仲間たちが私を置いて逃げていってしまいました。私にはあなた方が必要です。協力してください。」

「失礼な、私はあなたのことを助けたのですよ？あの怪鳥は人間を騙して巣に連れ帰り、その人間を雛の餌にするという習性があるのです。私はそれを知っていたから、あなた方を助けるためにあの恐ろしい怪鳥を撃ったのです。」

ミ=ゴとすでに出会っており、ミ=ゴがこちらに来られない状態だった場合

怪鳥に乗って、飛行機から脱出することができる。搭乗者の言った通りの場所に連れて行ってくれる。ただし、一度に一人しか乗れない。(シナリオクリア)

●エコノミープラス客室

乗客は皆眠っているように見えるが、異常なほどに静かだ。

床に大きな円形の穴が空いている。

・そのまま床下のコンテナも貫通して、コンテナ内の荷物が見えている。冷たい空気が吹き上げてきている。

・コンテナ内に降りると、機体前方に向けて、コンテナの壁に穴が空いているようで、奥の方に青い光が見える。

・青い光に近づくと、大きな羽音のようなものが聞こえる。

・更に近づくと、突然その光が強くなり、強く吸い込む風が吹いてくる。

★アイデアで「奥にあった外に通じる穴が、何かに塞がれていたが、それが取り払われたようだ」と気づく

★順に STR→DEX の五倍でロールしていき、全てに失敗したら外に飛ばされてしまう。

・これ以降、機内の気温気圧が下がり、CON が－4される

●ビジネス客室

乗客は皆眠っているように見えるが、異常なほどに静かだ。

★右側最後列の男性が警官で、銃を持っている。

●厨房

カーテンがしまっており、中の様子は見えない。

中では CA が倒れて死んでいる。その手には一輪のバラの花が握られている。

★バラの花に目星－30で成功すると、「サプライズ」と書かれた小さな紙が花びらの隙間に挟まれていることに気づく。

ポケットの中に操縦室の鍵が入っている。

●トイレ C

●ファースト客室

乗客は皆眠っているように見えるが、異常なほどに静かだ。

・緊急脱出用出口がある

●添乗員休憩室

CA が死んでいる。

壁にはホワイトボードがあり、「本フライトの武装警察官は 29B の鹿島」と書かれている。

●操縦室

扉には鍵がかかっている。

コクピットの中央に直径 50cm くらいの穴がある。

操縦室では機長と副操縦士も同じく死んでいる。

★コクピットを調べると、その下に透明な円柱状の水槽のようなものがあり、その中には何かが浮かんでいるようだ。コクピットの下は薄暗く、よく見えない。

それは、人間の脳みそのようだった。0/d3

★機長に目星で、死に際に懐を探っていたらしいことに気づく

・懐を探ると、交通安全祈願のお守りが入っている。

★アイデアで、お守りが少し膨らんでいることに気づく。

・お守りを開けると、中から手紙が出てくる。

2005.4.19

隼人へ

あなたが飛行機の操縦士になれたと聞いて、私は嬉しさ半分、不安半分といった気持ちです。

全ての手をつくして、それでももう、飛行機の墜落を止められない。そういう時になったらこのお守りを開けなさいといったわよね。だから、きっと今、その時が来てしまったのね。悲しいことだけど、私の行ったことを覚えていてくれて嬉しいわ。

そんなあなたに、秘密のおまじないを授けましょう。勇気を持って飛行機の外に飛び出して、もうだめだという瞬間に唱えなさい。あなただけでも、どうか無事で返ってきて。

ニンブル トラウト ルルイエ ナイアル

あなたの妻より

～飛び降りることにした場合の処理～

POW*4に成功しなければ足がすくんでしまい、飛び降りることができない。

★飛び降りる際には、飛び降りた瞬間にSANチェック 1d8/d20

まだミ=ゴと出会っていなかった場合

飛び降りようとすると、空中に伸びてきた触手が探索者を縛りつけ、探索者は宙吊りになる。

その触手の先には、1メートルほどもある巨大な昆虫のような怪物が居た。

触手はそのまま探索者を飛行機に引き上げる。

「大丈夫ですか、人間。なぜ飛び降りたのですか？人間は空をとぶことは出来ないというのが我々の認識ですが、これは間違っていましたか？」

ミ=ゴとすでに会っており、ミ=ゴがこちらに来られない状態だった場合

探索者は飛び降り、意識を保っていられれば呪文を唱えられる。

呪文を唱え、SIZと同量のMPを失い、地面につく寸前で停止する。1d3/1d8

辺り周辺は森であり、しばらく歩くと小さな村落にたどり着くことができた。どうやらこの辺りは中欧の国らしい。やがて、飛行機が墜落したとのニュースが入ってきて、探索者たちは危機を回避できたのだと知る。(シナリオクリア)

★穴の下に降りる

穴の下に降りると、けたたましい吠え声が一斉に聞こえ出す。広めのコンテナの中で、積み上げられたケージの中に、幾つもの反射する目がこちらを一斉に見つめる。ここは空輸中のペットのケージを詰め込んでいるコンテナの中だった。その中心で、待ち構えていたように、見たこともない生き物が立っていた。

大きな翼を持った、巨大な昆虫のような怪物が、二本の後ろ足で立っているのだ。

探索者たちの脳に直接声が聞こえてくる。

「こんにちは、地球支配種族。私は冥王星支配種族です。敵対する意思はありません。」

「私の仲間は、あなた方が我々の船に近づくことを恐れて、私を置いて行ってしまいました。我々はこのままではこの飛行機と共に地上へ落ち、確実に死ぬでしょう。私もそれは避けたい。」

「この脳に飛行機を操縦させるために、あなた方のうち誰かの身体を貸してもらえませんか？」
「この脳を活動させるためには、生きたヒトの体が必要です。この飛行機の中で、生きたヒトはあなた方の他に居ません。もちろん、あなた方の脳は安全です。用が済んだらもとに戻すことができます。」

「それに、今から施す特別な処置により、あなたは脳だけの状態で眼球ユニットを通じて視覚を得て、さらにテレパシーによる会話をすることも出来ます。念動力により浮遊しながら移動することも出来ます。悪く無いでしょう？」

「この方法は肉体と共にあるうちに同意を得て前処置を行っていないと取れないので、機長の脳に関してそれを行うことは無理です。」

※昆虫怪物は、探索者 A の身体が一番適切だという。

★脳を機長のものと詰め替えることを決める。

「この処置には 30 分ほどかかります。この飛行機はかなり上空を飛んでいるし、滑空状態にあるので、30 分以上の余裕はあるでしょう。安心して待っていてください。」

昆虫怪物は探索者の首に触手を刺し、探索者は意識を失う。昆虫怪物は奇妙な形の銃のようなものを探索者の後頭部にあてがい、引き金を引いた。すると、そこに他の乗客と同じような穴が空いた。昆虫怪物はそこから脳みそを取り出し、その代わりに、缶に詰まっていた機長の脳みそを探索者の頭に入れた。

取り出された探索者の脳みそには目玉のようなユニットが取り付けられる。これにより、視覚情報や聴覚情報は問題なく得ることができる。探索者は目を覚ますと、念動力で自由に飛び回れるようになり、テレパシーで会話をするができるようになる。

※CON、STR が 1 になり、SIZ は 3 になる。よって、最大 HP は 2 となる。DEX は 20 となる。

知識以外の技能は使えない。

機長が目を覚ます。

「わたしは一体…うっ、な、なんだこの声は…！？私の声じゃない…?!」

「そんな、私の身体が…。これは一体どういうことなんだ！」

「そうか、私を生き返らせてくれたのか…。この飛行機を着陸させるために…。」

「わかった、必ずこの飛行機は無事に着陸させよう。管制塔からの指示がなくても成功するはずだ。そのために私がいるのだ。しかし、自分の身体じゃないというのは変な感じだな…。」

機長は少し震えるような、ぎこちない動きで飛行機を操縦する。

飛行機は安定し、このままいけば安全に着陸できそうだという。

「それで、着陸したあと、私はどうなる。その体に戻ることはできないのか。」

「そうか、では、この体を返せば私は死ぬんだな。」

「悪いがそうは行かない。家には妻がいるんだ。私の見た目が変わったとはいえ、妻を置いて逝くわけには行かないんだ。」

「この体を私に寄越せ、でないと、私はこの機体を落とす。身体を返すことになるなら、着陸してもしなくてもどうせ死ぬのだからな。」

「おい、そこのお前。その脳みその化物を殺せ。そんなものを地上に持ち帰れば混乱させる。それに、そいつに帰るべき身体はもう無い。」

★CA の死体を見せる

「まさか…どうして、妻がここに！？今日は休みをとっているといっていたのに…。こんな、酷すぎ

る…！」

「わかった…飛行機は無事着陸させよう。私の死体はどうなってもいいが、妻の身体はいまの状態のまま、地上におろしてやりたい。飛行機は墜落させる訳にはいかないな。」

「私の身体は君に返すよ。わがママを言ってすまなかった…。」

そして、飛行機は着陸する。

昆虫怪物はテレパシーを発する。

「よかった、これで安全に抜け出すことが出来ますね。私をおいて行った仲間たちに報告もしなくては。それでは人間の皆さん、さようなら。」

そう言って、昆虫怪物は機長室を後にしようとする。

「何を言っているのですか？あなた方もご覧になったでしょう。脳の移転処置には30分ほどかかります。しかし、地上ではすでに騒ぎになっており、もう多くの人間が詰めかけてきていますよ。30分も時間が稼げるものですか。残念ですが、私は仲間の元へ帰ります。」

★機動隊の人間に対しては言いくるめに成功した後、説得により探索を遅れさせることができる。「よろしければ、脳みその姿になってしまったあなたもどうですか？」

★脳みその探索者が殺されそうになると、ミ=ゴは副操縦士に取り付いて、声を借りる

「私と一緒に来るという選択肢があります。」

「私の種族の技術力があれば、あなたの脳にある遺伝子構造から、君の肉体を再構築してやることも可能でしょう。私は我が種族の元へ帰る。あなたもその姿のまま、一緒にこればいいのです。」

～ミ=ゴの行動理念～

ミ=ゴは探索者達を助けようとは考えておらず、生きた人間の体を上手く利用して、機長の脳を動かし、飛行機を着陸させることしか考えていない。ミ=ゴはこの状態で、自分の力だけで生還することができないからである。もちろんミ=ゴは空をとぶことができるが、時速1000キロで飛行している飛行機から安全に飛び立つことはできない。

そのため、探索者が別の方法で脱出することを強く阻止しようとする。(アルデバランのホイッスルを見せた場合、無力化しようとするし、空中浮遊の呪文に関して聞こうとしても、嘘の説明をする。)

ミ=ゴは脳みそだけで動いている探索者について、その状態は本人の同意が得られないと実現不可能な非常に貴重な状態であるため、とても興味を持つ。そのため、是非持ち帰って研究したいと思っている。なので、機長は探索者の身体のまま帰し、脳みそ状態の探索者には甘い言葉をかけてミ=ゴのコロニーへと誘う。

また、ミ=ゴは拳銃のようなユニットを使用して、物体に穴を開けることができる。いざとなったらそれを武器として使うことができる。しかし、人間に対しては、武器で脅すよりも取引を持ちかけたほうが成功率が高いと認識しており、力で脅そうとはしない。

★飛行機が着陸する

飛行機は滑走路へと降りていく。機長の操縦により、問題なく飛行機はシャルルドゴーン空港に着陸した。

それから、昆虫怪物は再び缶を携えて、コクピットの横の壁に銃型ユニットを向ける。外への円形の穴ができた。

「それでは、地球人の皆さん、さようなら。」

そう言い残して、昆虫怪物は飛行機の外へと飛び立っていった。

飛行機が着陸すると、昇降口が開き、機動隊が入ってくる。地上ではすでに問題になっていたよ

うだった。

それから、プレイヤーたちは警察の尋問を受けたが、証拠も動機も方法もわからず不起訴となった。

(機長に身体を乗っ取られたままの場合、機長も上手くやったようで、その後の消息は知らない。)

★ミ=ゴと探索者のその後

ミ=ゴは探索者を特別なカプセルに詰め、地球のどこかにあるミ=ゴの基地へと送り着いた。ミ=ゴと接続され、ミ=ゴからの会話情報が直接が脳に入力されてくる。

「君も災難でしたね、あの機長にああもたやすく裏切られるとは。まあ、私は最初から君たちの選択も虫のいい話だと思っていましたが。」

「しかし、私にとっては幸運でしたよ。仲間たちにいい手土産ができました。」

「人間の同意を得て、このような状態で活動している脳みそは貴重でしてね。未開領域である、人間の感情に関する研究の材料として、非常に人気が高いのですよ。」

「もちろん、約束通り肉体を作ってお返しします。十分に研究を尽くしてからですが。」

「それにしても、人間とは愚かなものですね。きっと彼は、あなたに身体を返してくれましたよ。あなた達が彼に大切なことを伝えていさえすれば…」

「彼が生きたかった理由…彼の妻ですが、飛行機の中に居たんですよ。サプライズと言うんですか？人間の考えることはよく分かりませんが。彼は知らなかったんですね。彼の妻がもう、この世に居なかったということ。」

「これから実験が開始されます。あなたがいつまで正気でいられるか、我々はそれが知りたいのです。何か最後に言い残すことはありますか？」

それからの間、探索者の脳みそは悪夢のような研究に晒され続けることになる。脳みそだけの姿で、自ら死ぬことも出来ず、ただ痛みと苦しみに耐えながら、研究が終わる日を待ち続けるのだった。

★SAN が 0 になるまで、1d100 を振り続ける。

(シナリオエンド)

★内藤徹子の呪文を唱える

「ウィシュニーアラソテ」と唱えると、にわかに昆虫怪物が動揺しだしたのを感じた。

「あなたは、あのお方とお知り合いなのですか？」

「これは失礼いたしました。あのお方のご友人とは知らずに、大変な粗相をいたしまして。…ちょうどいい、今まさにあの方は奥の部屋においでです。お通し致しましょう。くれぐれもよろしくお願いいたします。」

～ウィシュニーアラソテについて～

この呪文は、内藤徹子が言ったとおり、ミ=ゴなどニャルラトテップの信奉者に対して通じる、「私はニャルラトテップの友人です」という意味の言葉である。つまり、私に手を出せばニャルラトテップが黙っていないぞという脅し文句である。

しかし、ニャルラトテップの友人が人前で簡単に自身をニャルラトテップの友人であるなどと言うことはないとしており、これを人前で使った時点でこの脅し文句は効果を失う。本当のヤクザは簡単に自分の組の名前を出さないというアレ。

今回のミ=ゴもこのことを承知しているので、人前で軽々とこの言葉を口にする人間を大切に

扱ったりはしないだろう。しかし、もしかしたら本当にニャル様のお友達なのかもしれない、という疑念は湧くので、その後ふたりきりになった時に、詳しく話を聞き、態度を改めるかもしれない。

探索者は開放され、奥の部屋へと促される。

奥の部屋は広い広い空間で、神殿のような豪華な装飾が壁のいたるところに見て取れた。

しかし、そんなものよりもあなたの目に止まったのは、その広い部屋に鎮座する、巨大な巨大な怪物であった。それは、見ようによっては太った女性のようにも見えたが、手や顔からは触手が垂れ下がり、この世のものとは思えない醜さだった。1d8/1d20

「あら…あなたもなかなか素敵な姿になったわね。飛行機の中で会った時よりもハンサムよ。」

「あの子たちったら、私もあの飛行機に居たというのに、それにも気づかず脳みそをかき集めてしまうんですもの。困った羽虫だわ。まあでも、あの体がダメになってしまった代わりに、美味しい人間の脳みそが200個近くも手に入ったのだから、それについてあの子たちを責める気は無いけれど。」

「ところで、あなたは覚えがないかもしれないけど、私はあなたには恩を感じているの。だって、あなた達が居なかったら、あの飛行機は墜落して、わたしの荷物もダメになっていたでしょう？あなたのおかげでフランスにアレを持ち込めたわけだし、その御礼はしないとね。あなたはやはり元の姿に戻りたいのかしら？こんな忌まわしい記憶、消してしまいたい？なんでもいいわ。言ってご覧なさい。あの子達の行動について、私ができるかぎり、埋め合わせをしてあげましょう。」

(シナリオクリア)

★探索者はニャラトテップによって、たいていの願い事を叶えてもらうことができる。

※ニャラトテップの目的は、ミサジレクイエムペルシュジャイをフランスに持ち込むことだった。その真意は定かではない。

このシナリオのキーパリングのコツのようなもの

このシナリオでプレイヤーを楽しませるには、ヒントの出し方が重要です。機長を説得する方法がわかりづらすぎたり、ウィシュニーアラソテが出てこなかったりすると、脳みそ状態になった探索者はただ貧乏くじを引かされた状態になってしまいます。それ以外の探索者がのうのうと生きて帰ることになってしまう点でも、楽しみ方に差がでてしまってよくありません。ですので、薔薇のヒントと、「ウィシュニーアラソテ」という言葉を決して忘れないように提示しましょう。ただし、あまり露骨に強調すると、謎解きが簡単になりすぎてしまうので、ほどほどに。

一番楽しいのは、「そういえば今まですっかり忘れてたけど、コレがあった！」と思いつく瞬間です。「状況に陥るまで、すっかり忘れてしまうくらいの印象」というのが最高の塩梅なのですが、難しいですね。

ウィシュニーアラソテを唱えるタイミングですが、必ずしもプレイヤーが思い通りのタイミングで使ってくれるとは限りません。そのときのごまかし方は状況に因るとしか言えませんが、できれば、探索者の最後の切り札を無駄にさせないようにフォローしましょう。

探索者が脳みそ状態になってしまっているのであれば、その言葉を聞いて焦ったミ=ゴが、思わず探索者を黙らせるために気絶させてしまい、エンディングまでシナリオから除外するという方法もあります。探索者が脳みそ状態になってしまい、機長を説得することもできない場合、脳みそ探索者にできることはほぼありませんので。

ミ=ゴを頼る以外の二つの脱出方法(空中浮遊とビヤーキー)がありますが、安易に手を出すと簡単にシナリオが終わってしまいます。ですので、ミ=ゴには無慈悲になってもらって、それらのルートは積極的に潰していきましょう。

このシナリオでは「自分が生き残るために他人を犠牲にする」という要素があります。みんなで仲良く生還というのが難しくなっているのです。そうした楽しみ方をできるプレイヤーで楽しむことをおすすめします。